



俳句

池の面蜻蛉脚触れ輪を描く

水野 裕子



あの方の好みの傘得て梅雨を待つ

米山 和子

夕立や勝負が残る縁台に

池田ひとみ

川柳

無口な金魚今日はあぶくを一つ吐く

森 廣子

原則として果物はみな皮を剥く



バイキング元を取るため昼抜くか

松上 初美

短歌

当麻寺ひとめ菩薩に会いたくて

陣取りをする錬供養の日

池田ひとみ

月見草一夜限りに咲く哀れ

水に挿されて紅色となり

井上 恵子



「大阪のいぶき 119 号」投稿